

二〇三三年三月一七日

囀りやお代は吊るす竹筒に
卒業証遺影の父に報告す
貸し舟のあるじ手を挙ぐ浜のどか
お辞儀しておさげ地に触る卒園式
森の蝶道の日の斑に紛れけり

二〇三三年三月一六日

黒土に落花畳をなせりけり
岩穴に灯る仏の春灯
ごみ出しの手を止めて聞く初音かな
客人として故郷の青き踏む
耕され土黒々と立つてをり
囀りの伝播途切れぬ楠大樹

二〇三三年三月一五日

首に巻く真珠に春の寒さあり
登り行くリフトの足下露の臺
筆洗ふ水を貰ひし春の川
輸血とは命のしづく春日差す

二〇三三年三月一四日

老い母へ朝日を透かす春障子
不織布に透けたるごとく月朧
愚づる子を肩車して青き踏む
宮参りの嬰に合掌老遍路

二〇三三年三月一三日

失せ物を探しあぐねる日永かな
前通るたびつまみ食ひ雛あられ
春泥の肉球あとやボンネット
川面へとなだれをなせる雪柳

二〇三三年三月一二日

四阿に一会の人とあたたかし
路地裏は子らの縄張り春夕焼
店番に犬置いてゆく苗売女
初音聞くとの一行程の日記かな

二〇三三年三月一日

庭仕の手思はず止まる初音かな
採寸の両手真つ直ぐ春日燦

うつき	むべ	ひのと	もとこ	澄子	せいじ	なつき	もとこ	うつき	明日香	素秀	ひのと	豊実	素秀	たか子	あひる	たか子	みきお	なつき
-----	----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----

ぽんこ
みきお
こすもす
満天

なつき

ひのと

ひのと

うつき

うつき

ひのと

毎日句会みのる選・二〇三三年三月一九日